



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和3年
7月15日
第4号



7月は「文月（ふみづき・ふづき）」とも言います。稲穂が実る月「穂含月（ほふみづき）」が変化したという説や、七夕の時期に短冊に詩歌をしたためて書の上達を祈る風習からなど、由来は諸説あるようです。子どもたちにも、由来や風習について伝えてみてはどうでしょうか。

暑い日が続きますが、児童生徒の体調管理はもちろんのこと、先生方自身の体調にも十分気を付けて、この夏を乗り切りましょう！

今回は、「本質的な問い」と「生徒指導規程の見直し」について紹介します。



「学びの変革」の更なる加速に向けて

各学校において、単元構想シートを活用した「本質的な問い」による授業改善について、第1回「学びの変革」推進協議会の研修内容を踏まえ理論研修を実施しているところだと思います。

単元構想シートは作成することが目的ではなく、それを活用して単元計画や授業を組み立てることで、授業や子どもの学びがどのように変わったかを突き詰め、授業を改善していくことが目的です。

そこで、先生方にこだわっていただきたいのが「問いの質」です。

教師の問いの質によって、子どもの考え方やそこから導かれる答えが劇的に変わってくるのだと思います。だからこそ、一問一答ではなく

「質の高い問い」にこだわり、子どもの多面的・多角的な考えを引き出し、教科の見方・考え方を働かせながら、学びを深めていきましょう。

その結果、普段の生活や将来社会に出たときに、「こんな場面でこんな事に役立つんだ」と子どもたちが自身が「**学びの本質**」「**学ぶ意義**」に気付くことができれば、ベストではないでしょうか。



【令和3年度広島県教育資料 P1-11】



生徒指導規程の見直しの推進について ～全ての児童生徒のよりよい学校生活を目指して～



近年、「ブラック校則」という言葉がメディアに取りあげられる機会が多くなりました。「子どもの人権侵害である。」「LGBTをはじめ、多様な子どもたちへの配慮が足りない。」など様々な意見があります。

学校においては、これらの社会の動向に目を向け、一般社会と乖離しないような校内規律とすることが重要です。また、すべての問題を学校内だけで解決しようとせず、家庭や地域社会に対して、児童生徒の健全育成についての働きかけをすることが求められています。

このような社会の動向を踏まえ、現在の生徒指導規程は時代に合ったものとなっているのでしょうか。必要かつ合理的な範囲の内容となっているのでしょうか。また、児童生徒は自らの意志ではなく「守られているもの」という意識で規範を守り、行動していないのでしょうか。それぞれのルールの設定理由や背景、こんな児童生徒になってほしいという想いを児童生徒や保護者と一緒に議論し生徒指導規程の見直しを行うことは、各校で取り組まれている「育てたい児童生徒像」に近づけるためのひとつの方法と考えます。

6月15日に「校則の見直し等に関する取組事例と本市での取組について」を各校に通知しました。これまでも各校では定期的に生徒指導規程の見直しをはかり、より学校の実態にあったものとなるよう取り組んできました。廿日市市ではこれをもう一歩進めて、児童生徒や保護者が参画し、継続して生徒指導規程を見直すことのできる仕組みづくりを推進していきます。

この取組が全ての児童生徒の主体性を培い、生徒指導規程に対する理解を深め、自分たちのものとして守っていこうとする態度を養うことにつながるよう期待しています。

目指せ！日本一の図書室！

令和3年7月3日（土）に、子ども司書養成講座全体研修を開催しました。

今年度は、市内小学校10校から15名の6年生児童が参加しています。

どの子どもたちも「本の楽しさやよさを多くの人に知ってほしい！」という思いをもっており、これから学校や地域の図書館で読み聞かせや本の紹介、図書館でのカウンター業務などを行います。

全体研修 子どもたちの感想より

- ・本はみんなを笑顔にしていけることが分かりました。
- ・みんなに本の面白さを分かってもらえるポップを作りたいです。
- ・自分達の学校の図書室も、「日本十進分類法」の示し方など、分かりにくいところはどんどん改良していきたいです。



「日本一の図書室」づくりにおいて、子ども司書の子どもたちが活躍できる場があれば、ぜひ参加させてあげてください！

特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

令和3年6月29日（火）にオンラインによるプロセス研修（特別支援教育推進研修）を開催しました。

廿日市特別支援学校の小学部と中学部の授業を動画で視聴しました。どちらの授業も、既習事項の想起や振り返りにおいて、子どもたちの活動の様子を写真や動画で確認するなど、ICT を効果的に活用されていました。

廿日市特別支援学校の特別支援教育コーディネーターである川崎先生から、特別支援学校のセンター的機能を積極的に活用してほしいというお話もありました。

こんなときには御相談ください！

特別支援学校の授業づくりに悩んでいる。

通常学級に在籍している気になる児童生徒の対応に困っている。

今の指導が子供の実態にあっていないか不安である。

特別支援教育に関する研修会を行いたい。



特別支援教育の視点に基づいた授業づくりや配慮が必要な子どもへの対応など、日々の教育活動における悩みがある場合は、所属校の校長先生から特別支援学校の校長先生へ連絡してみてください！

ICT活用への道

タブレットをこうして活用しています！第2弾

友和小学校



第2弾は「友和小学校」です。令和3年6月24日（木）に、5年生の国語の授業を参観しました！

子どもたちは「昔話のおもしろさ再発見！プロジェクト」という言語活動を軸に学びました。昔話を比較しながら、昔話が四場面構成になっている理由を探っています。今回の授業では、2つの昔話を比較し思考するのにタブレット端末を活用していました。

右の写真のように、Google Workspace で Jamboard を使いました。

Jamboard には思考ツールのペン図が貼り付けられていて、そこに黄色とピンク色の付箋がいくつも提示されています。それぞれの物語の情報が記載されたものです。子どもたちは付箋を動かしながら、意見を述べ合い思考していきます。

グループ学習になったときに、子どもたちだけで活発な意見交流ができていました。一人1台のタブレット端末による視覚的操作が子どもたちの学びを深めていきます。



先生たちも活用しています！

当日は、授業について先生方の研修が行われ、そこでも Chromebook を使って Jamboard アプリを活用し、協議されていました。

使い方に慣れる第1歩です。

